

## 田島神社（1/2）

～海上の守り神がおわす小さな港町の古社～

祭神は『神社明細帳』によると、田心（たごり）姫命・市杵島（いちきしま）姫命・湍津（たぎつ）姫命のいわゆる宗像（むなかた）三神、相殿に大山祇（おおやまつみ）命・稚武（わかたけ）王を祀る。『延喜式』に松浦郡「田島坐神社（たじまにます）大名神」とあり、肥前の式内四社のうち唯一の大社である。

田島の社名については、宗像大社のある福岡県田島から祭神を遷し祀ったことによるものと考えられている。古くは肥前一の宮であり、朝鮮半島や大陸の航路の要地にあつて、海上の守護神として信仰をあつめていたのであろう。

『三代実録』によると、貞観元年（859）正月27日に田島神社を従五位下から従四位下に昇階したのにはじまり、同2年2月8日に従四位上、同15年9月16日に正四位下、元慶8年（884）12年16日に正四位上へ昇階している。このころは、遣唐使の派遣をはじめ、新羅・渤海（ぼっかい）などとも交渉がさかんであり、当地が海上交通の要地でもあったため、朝廷の崇敬をうけたのであろう。長保五年（1003）には、僧の寂照（じゃくしょう）が肥前国を出発して入宋しているが、壁島から出発したのではなかろうか。それというのも『扶桑略記』によると、延久四年（1072）、大雲寺阿闍梨（あじゃり）の城尋（じょうじん）が3月15日、宋に渡航するために壁島を出発しているからである。

宋の商人の渡来や修交関係もあり、大陸への渡航地として重要な位置をしめしていたとおもわれる。

～2/2へつづく～

分野 歴史

地域 呼子

◎地図・写真・統計資料など



田島神社

（唐津新聞社より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『日本の神々：神社と聖地 /九州』 谷川健一編  
発行白水社
- ◆『佐賀県の文化財』  
編集佐賀県教育委員会  
発行佐賀新聞社
- ◆『佐賀県神社誌要』  
発行佐賀県神職会
- ◆『呼子町史』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

<p style="text-align: center;"><b>田島神社（2/2）</b> ～海上の守り神がおわす小さな港町の古社～</p>	分野	歴史
	地域	呼子
<p>～1/2からつづく～</p> <p>さらにこの地域には、松浦党が勢力を養い、『鎮西要略』にその活躍がしのばれる。『石志（いしし）文書』康和4年（1102）8月29日付、松浦（源）久（ひさし）から三男勝（まさる）への譲状案にある『嘉部』は加部島に比定され、石志氏管下の土地であったことが知られ、『有浦家文書』明德4年（1393）10月の定慶の訴状によると、波多氏の所領内に組み入れられている。これら豪族たちが当社の祭祀にあたっていたことは想像に難くない。また鎌倉時代の後期、正応5年（1292）当時の田島神社の荘園は14町5反と伝えられているが（『河上神社文書』）、このころ肥前国一の宮の地位は田島神社から河上神社に移っている。これは国衙（こくが）との関係が深くなった河上神社の勢力が強化され、遣唐使の廃止とともに田島神社の勢力は後退していったためと推察される。</p> <p>なお本殿の裏の山林内に磐境（いわさか）（祭場）と考えられる場所があり、立った3個の巨石と2個の平石が現存し、太閤祈念石といわれる巨石もある。この付近一帯が田島神社を祀った最初の場所と考えられている。</p> <p>田島神社：佐賀県唐津市呼子町加部島3956</p>	<p>◎地図・写真・統計資料など</p>	
<p>◎エピソード・伝承・うんちく など</p> <p>田島神社の社林（約35,600㎡）は常緑広葉樹林の天然林として、その植物相は特に優れており、海岸の自然林としても保存がよく、植物学上、貴重な存在である。北東部の海岸斜面は、ハマビワ、マサキ、トベラ、ヤブツバキが優先する風衝林（ふうしょうりん）。南西・内陸部はスダジイ、タブノキ、シロダモなどの高木林。南西中央部はホルトノキ、バクチノキなど高・亜高木が多く、暖地性の特徴を持つ。全体的にシイ・ダブ林となっているが低木層、草木層、ツル性植物も極めて自然に繁茂している。特に貴重なことは、アオノクマタケランとギョクシンカの自生地ということである。アオノクマタケランは台湾・九州・四国・紀伊半島南部・伊豆諸島に分布するが、加部島は分布において日本海側の北限であり、県内唯一の自生地である。ギョクシンカは台湾・九州に分布するが、加部島は杵岐につぐ北限になっており、個体数は少なく、30株ほどと推定されている。</p>	<p>◎引用・参考文献（出典）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆佐賀県殿原寺の六観音像／田鍋隆男</li> <li>◆『浜玉町史』浜玉町教育委員会</li> <li>◆『佐賀県の文化財』佐賀県教育委員会</li> </ul> <p>◎もっと詳しく知りたい方は</p> <p>唐津市近代図書館へお問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： <a href="http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html">http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</a></p>	